

手指衛生の 5 つのタイミングについての実態調査 ～手指衛生の直接観察法を試みて～

【はじめに】医療従事者の手指は病原体の伝播経路となる為、手指衛生は最も重要な感染対策である。当病棟においてもその重要性を踏まえ、前年度看護研究として取り組み、手指消毒剤の使用量が 3 倍近く増加するなどの効果が得られた。しかし、手指衛生に必要な要素は手指消毒剤の使用量だけでなく、『5 つのタイミング』についても重要である。

そこで、当病棟では手指衛生に対する適切なタイミングでの手指衛生の実施と使用量の増加を目的として本研究に取り組んだ。

【方法】当病棟看護職員を対象に、手指衛生の 5 つのタイミングについての現状把握を行なう為、事前アンケートを実施した。その後 5 つのタイミングで手指衛生が出来ているかを観察者の姿が目立つ直接観察法（以下 ODO）を用いて調査し、出来ていないところについて指導を行なった。次に観察者の姿が目立たない直接観察法（以下 UDO）を用いて調査し、出来ていないところについて指導を行ない、ODO と UDO の比較検証と手指衛生の実態調査をした。

【結果・考察】UDO・ODO の直接観察法を用いた場合いずれも手指消毒剤使用量は増加した。5 つのタイミングについては UDO より ODO の方が高い結果となった。

ODO による意識付けは有効であったが、ホーソン効果の影響もあると考えられる為その効果を一時的なものではなく継続していくことが必要である。